

2009年度 大学院法務研究科
法学既修者認定試験
刑事訴訟法
(問 題)

第1問

次の【事例】を読んで、後記【設問】に答えなさい。

【事例】

1 警察官 A 及び B は、深夜、制服姿で繁華街を警ら中、挙動不審な X 及び Y の二人の男を発見し、職務質問するため「もしもし、ここで何をしていますんですか。」と言って声を掛けたところ、X と Y は無言のままいきなり逃げ出した。そこで、A は「待ちなさい。なぜ逃げるんだ。」と言って二人を追いかけ、A は追い付いた X の背後からその右手首を掴んだ。手首を掴まれた X はその場に立ち止まったが、すぐに逃げ出す素振りを見せたので、A は X に逃げられないようにするため、X の右手首に片手錠を掛けた。すると、X は観念した様子を見せたので、A は、X の右手首に掛けた片手錠をはずした。そして、A が X に対して職務質問を始めようとしたところ、X は、いきなり「この野郎。」と言って、右手拳で A の顔面を 1 回殴打してきたので、A は、直ちに X を公務執行妨害罪の現行犯人として逮捕した。

2 一方、X と一緒に逃げ出した Y も、X が A から右手首を掴まれて立ち止まったことから、その場に立ち止まったが、Y は、着用している上衣の左内側に右手を入れたままの姿勢で、何か隠しているような素振りであった。不審に思った B が「何か持っているのか。見せなさい。」と言ったところ、Y はこれを拒否した。そこで、B が「それなら見るぞ。」と言って、Y が右手を入れていた上衣の内ポケットの中に手を差し入れたところ、ちり紙に包まれた何か柔らかい物があったので、これを取り出してみると、ちり紙に包まれた白色結晶状の粉末の入ったビニール小袋であった。B が「これは何だ。覚せい剤ではないのか。」と言って、Y の承諾を得て検査をしたところ、覚せい剤の陽性反応が出たので、B は、その場で Y を覚せい剤所持の現行犯人として逮捕するとともに、上記ビニール小袋等を差し押さえた。

【設問】

上記【事例】に記載された警察官 A 及び B の行為の適否について、刑事訴訟法上の問題点を指摘し、事実を摘示しつつ論じなさい。

2009年度 大学院法務研究科
法学既修者認定試験
刑事訴訟法
(問 題)

第2問

裁判所は、「被告人は、X と共謀の上、平成×年×月×日深夜、東京都新宿区……所在のコンビニエンスストアにおいて、店員 Y に対し、サバイバルナイフを突き付けた上、『金を出せ。』と申し向け、同人の反抗を抑圧した上、現金 50 万円を強取した。」という強盗被告事件を審理していたが、審理の結果、被告人が公訴事実記載の日時・場所において、強盗の実行行為をした事実は間違いないものの、単独犯であるのか共同正犯であるのかいずれとも断定できないとの心証に到達した。

この場合、裁判所は、「被告人は、単独又は X と共謀の上、…」と認定することができるか。その可否について論じなさい。